



2018年12月3日

各 位

会社名 窪田製薬ホールディングス株式会社
代表者名 代表執行役会長、社長兼最高経営責任者
窪田 良
コード番号 4596 東証マザーズ
問合せ先 執行役最高財務責任者 前川 裕貴
(TEL : 03-6550-8928 (代表))

米国子会社の研究開発体制に関するお知らせ

窪田製薬ホールディングス株式会社（以下「当社」）は、2018年11月30日（米国太平洋時間）開催の取締役会において、今後の企業価値の向上に向けて研究開発の更なる生産性向上を図るため、当社100%子会社のアキュセラ・インク（米国、以下「アキュセラ」）の研究開発体制を変革することを決議しましたので、お知らせいたします。

当社は米国の研究開発拠点であるアキュセラにおいて、眼科向けの医療用医薬品・医療機器の研究開発を行っておりますが、現在主力開発品である「エミクススタト塩酸塩」のスターガルト病を適応症とする第3相臨床試験を開始したことに加え、遠隔眼科医療モニタリングデバイスである超小型モバイルOCT「PBOS」(Patient Based Ophthalmology Suite)が臨床試験を完了し、超小型量産機の開発・製品化のステージに入るなど、今後研究開発費が更に増加することが見込まれます。

このような環境の中、当社は研究開発の一層の生産性向上を図るため、アキュセラが保有する研究施設を縮小するとともに、人員削減を行うことと致しました。また、アキュセラの研究施設ではこれまで低分子化合物の研究を中心に行ってまいりましたが、今後は医薬品の研究開発への応用が期待されるAIやブロックチェーン等も活用し、当社が現在注力している遺伝子治療薬の研究開発体制の強化を図っていく方針です。

なお、研究施設の縮小及び人員削減に伴い事業再構築費用を2018年12月期において計上する予定ですが、コスト削減施策によりこの影響は相殺されるため、現時点において2018年12月期の連結業績予想に変更はありません。

以 上

窪田製薬ホールディングス株式会社について

当社は、世界中で眼疾患に悩む皆さまの視力維持と回復に貢献することを目的に、イノベーションをさまざまな医薬品・医療機器の開発及び実用化に繋げる眼科医療ソリューション・カンパニーです。当社100%子会社のアキュセラ・インク(米国)が研究開発の拠点となり、革新的な治療薬・医療技術の探索及び開発に取り組んでいます。当社独自の視覚サイクルモジュレーション技術に基づく「エミクススタト塩酸塩」において糖尿病網膜症およびスターガルト病への適応を目指し研究を進めております。また、白内障



や老視(老眼)の薬物治療を目的とした低分子化合物の研究開発、そして網膜色素変性における視機能再生を目指す遺伝子療法の開発を実施しております。同時に、糖尿病黄斑浮腫、ウェット型加齢黄斑変性など血管新生を伴う疾患の治療を目指し、生物模倣技術を用いた低分子化合物の研究開発も進めております。在宅・遠隔医療分野(モバイルヘルス)では、PBOS などクラウドを使った医療モニタリングデバイスの研究開発も手掛けております。

(ホームページアドレス：<http://www.kubotaholdings.co.jp>)

免責事項

本資料は関係情報の開示のみを目的として作成されたものであり、有価証券の取得または売付けの勧誘または申込みを構成するものではありません。本資料は、正確性を期すべく慎重に作成されていますが、完全性を保証するものではありません。また本資料の作成にあたり、当社に入手可能な第三者情報に依拠しておりますが、かかる第三者情報の実際の正確性および完全性について、当社が表明・保証するものではありません。当社は、本資料の記述に依拠したことにより生じる損害について一切の責任を負いません。

本資料の情報は、事前の通知なく変更される可能性があります。

本資料には将来予想に関する見通し情報が含まれます。これらの記述は、現在の見込、予測およびリスクを伴う想定(一般的な経済状況および業界または市場の状況を含みますがこれらに限定されません)に基づいており、実際の業績とは大きく異なる可能性があります。今後、新たな情報、将来の事象の発生またはその他いかなる理由があっても、当社は本資料の将来に関する記述を更新または修正する義務を負うものではありません。